

事例1 年表や地図を活用して、14世紀のヨーロッパにおけるペストの流行の背景について考察する授業

1 ねらい

新学習指導要領において、「世界史A」では科目の目標に「諸資料に基づき」の語句が加えられた。これを受けて、内容の取り扱いには、内容の全体にわたる配慮事項として、「年表、地図その他の資料を積極的に活用したり、文化遺産、博物館や資料館の調査・見学を取り入れたりするなどして、具体的に学ばせるように工夫すること」が示された。地図や年表の有効性については、平成22年の『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』に、「歴史的事象を時間的、空間的に正しく位置付け、時代背景や地理的条件との関連等を考察する上で有効である」と書かれている。また、地図を活用した学習を一層重視することが、平成20年1月の中央教育審議会答申における高等学校地理歴史科の改善の具体的な事項に示され、地図の活用が地理ばかりでなく、世界史や日本史の学習においても重視されるようになった。

これを踏まえて、本事例では、年表や地図を活用して、14世紀のヨーロッパにおけるペストの流行について考察する授業を行った。年表や地図を作成したり、作成した年表や地図と、これまでの学習で得た知識とを活用して、ペストがヨーロッパに伝わった背景や、ヨーロッパにおいて流行した背景について考察したりする学習活動を行った。また、話し合いや考察の過程、さらにはそれらの結果を文章に書かせるなどの言語活動を取り入れた。一連の学習活動を通して、生徒が事象に対する関心や意欲を高めたり、事象の背景を多面的・多角的に考察したりすることを目指した。

2 授業実践

(1)単元の指導目標

地中海交流圏の成長とモンゴル帝国による陸路のネットワークの整備とによりユーラシア大陸の東西交流が活発化したことが、14世紀のヨーロッパにおけるペスト流行の原因であることを、年表や地図を基に考察させる。

(2)単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 of 技能	知識・理解
・14世紀のヨーロッパにおけるペストの流行の原因に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。	・14世紀のヨーロッパにおけるペストの流行の原因について、地中海交流圏の成長やモンゴル帝国の拡大と関連付けながら、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	・地中海交流圏の成長やモンゴル帝国に関する情報を、年表や地図にまとめたり、まとめたものから、有用な情報を読み取ったりしている。	・地中海交流圏の成長やモンゴル帝国に関する基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。

(3)指導計画（3時間）

時間	学 習 活 動	評 価 計 画
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ペストの原因や症状などの基本的な事柄に関するクイズに答える。 ・ペストが14世紀のヨーロッパで流行した原因について、クイズに答えながら考える。 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペストの流行について関心を高め、その背景となった14世紀のヨーロッパの社会の様子について意欲的に考えている。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・地中海交流圏の成長に関する情報を、年表や地図にまとめる。 ・年表と地図を参考にして、ペストがヨーロッパに伝わった背景をグループで話し合いながら考え、文章にまとめる。 	<p>【資料活用の技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地中海交流圏の成長やモンゴル帝国に関する情報を、年表にまとめている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループでの話し合いを通して、作成した年表や地図を多面的・多角的に考察し、考察した過程や結果を文章で書いている。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ペストをヨーロッパに伝えたのはどのような人たちか、グループで話し合いながら考える。 ・ヨーロッパにペストが伝わり、流行した背景について、これまでに学習した内容を踏まえて各自で文章にまとめる。 	<p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地中海交流圏の成長やモンゴル帝国の成立がユーラシア大陸の東西交流を活性化させたことを理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・14世紀のヨーロッパにおけるペストの流行について、当時のヨーロッパの都市の衛生状態と関連付けて文章で表現している。また、ヨーロッパへのペストの伝播について、東西交流の活性化と関連付けて表現している。

(4)授業の概要

ア 1時間目の授業

1時間目の学習活動は、生徒の関心や意欲を高めることを目標として、クイズに答えさせながら、基本的な事柄を身に付けさせた。2年生の1クラス（20人）を4人ずつの五つのグループに分け、グループの中で話し合わせながら、解答させた。


時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準〔評価方法〕
導入 3分	<ul style="list-style-type: none"> ・中世ヨーロッパの「ペスト医」の絵を見て、どのような職業か考えたことを発表する。 		
展開 45分	<ul style="list-style-type: none"> ・ペストの原因や症状などの基本的な事柄に関するクイズに答える。 ・ペストが14世紀のヨーロッパで流行した原因について、クイズに答えながら考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クイズの内容をスクリーンに映す。 ・ペストによりヨーロッパの総人口の3分の1が死亡したことに触れ、ヨーロッパ 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペストの流行について関心を高め、その背景となった14世紀のヨーロッパの社会の様子について意欲的に考えて

		社会の発展に大きな打撃を与えたことを伝え、ペストが流行した原因を追究する意欲を高める。	いる。 〔話合いの様子〕
まとめ 2分	・次時の学習内容の予告を聞く。		

導入では、インターネットから入手した中世ヨーロッパの「ペスト医」の絵をスクリーンに映し、この人物の職業は何かという発問をした。鳥のようなくちばしの付いた仮面が生徒の興味を引いた。続いて、ペストに関するクイズを行った。その際、出題内容が確実に伝わり、グループで話合いをしている時であっても見られるように、問題をスクリーンに映しておいた。

<インターネットから入手した中世ヨーロッパの「ペスト医」の絵>
(http://fr.wikipedia.org/wiki/Fichier:Doktorschnabel_430px.jpg)

【この人物の職業は何でしょう？】



中世ヨーロッパの

- a.サーカス団員
- b.兵士
- c.医者
- d.錬金術学者

<スクリーンに映したクイズの問題の例>

【問題その⑤】

この病気により、14世紀には、ヨーロッパの総人口1億人のうち何人が死亡したのでしょうか？

- a.100万人 d.1000万人
- b.300万人 e.3000万人
- c.500万人

答え

e

・総人口の実に3分の1に当たる人々が亡くなったこととなります。

出題したのは以下の11問である。

- 問題その①「この病気は、何という通称で呼ばれたのでしょうか。」
- 問題その②「この病気は、現在何という名前で呼ばれているのでしょうか。」
- 問題その③「この病気は、もともとどんな動物に多い病気だったのでしょうか。」
- 問題その④「この病気の病原菌を媒介するのはどんな動物でしょうか。」
- 問題その⑤「この病気により、14世紀には、ヨーロッパの総人口1億人のうち何人が死亡したのでしょうか。」
- 問題その⑥「この病気によって生じた大量の死体を、当時の人々はどうしたのでしょうか。」
- 問題その⑦「中世ヨーロッパでは排泄物をどのように処理していたのでしょうか。」

問題その⑧「中世ヨーロッパでは、着替えはどのくらいの頻度でしていたでしょうか。」
 問題その⑨「中世ヨーロッパでは、入浴はどのくらいの頻度でしていたでしょうか。」
 問題その⑩「中世ヨーロッパの肉屋は、さばいた後の動物の残骸をどのように始末していたでしょうか。」
 問題その⑪「中世ヨーロッパでは、ごみの処理や動物の死体の処理をどのように行っていたでしょうか。」

問題その①から問題その⑥は、ペストに関する基本的な事柄を理解させるためのものである。問題その⑦から問題その⑪は、中世ヨーロッパの都市の衛生状態が悪くなかったことを生徒に気付かせるためのものである。問題がスクリーンに映されると、どのグループでも正解は何かをめぐって活発な意見の交換が始まっていた。



(スクリーンに映された問題を見る)



(スクリーンでクイズの答えを確認する)

生徒に出題の内容を理解させる上で、スクリーンに問題を映すことは効果があった。また、スクリーンに映すことで、生徒の視線を前に向けることができ、生徒が教師の説明や他のグループの生徒の発表を聞く際に効果があった。

授業中の生徒の様子を見ると、クイズの答えを考えるためにグループで活発に意見の交換をしたり、スクリーンに映し出された画像を熱心に見たりする様子が見られたことから、スクリーンの活用やグループごとの活動が、学習内容に対する生徒の関心や意欲を高めることに効果があったと言える。

イ 2時間目の授業

2時間目は、年表や地図を活用して、ペストがヨーロッパに伝わった理由を考えさせる活動を行った。年表や地図を見ながら、ヨーロッパでペストが流行した時代と、その前の時代とのユーラシア大陸の動きを確認させ、理由を考える際のヒントとした。

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準〔評価方法〕
導入 3分	・本時の活動内容の説明を聞く。		
展開 45分	・指示に従って年表を作成する。 ・作成した年表と、ワークシート①の地図を参考に、ペストがヨーロ	・ペストの発生源と、ヨーロッパの位置を	【資料活用の技能】 ・地中海交流圏の成長やモンゴル帝国に関する情報を、年表にまとめている。 〔年表〕 【思考・判断・表現】

	<p>ッパに伝わった理由をグループで話し合いながら考え、文章にまとめる。</p> <p>・ワークシート①の地図に、モンゴル帝国の領域を示す。</p>	<p>スクリーンに映し、確認させる。</p> <p>・モンゴル帝国の領域がヨーロッパに及んでいることに気付かせる。</p>	<p>・グループでの話し合いを通して、作成した年表や地図を多面的・多角的に考察し、考察した過程や結果を文章で書いている。</p> <p>[ワークシート①]</p>
まとめ 2分	<p>・次時の学習内容の予告を聞く。</p>		

展開の初めに年表の作成を行った。十字軍やマルコ＝ポーロ、モンゴル帝国の拡大など、11世紀から13世紀にかけてのユーラシア大陸の交流に関する事柄をあげ、それらの内容を教科書で確認させながら、年表（p12参照）の該当する位置に記入させた。グループでの活動としたが、事柄をアジアの欄とヨーロッパの欄のいずれに記入するかで悩むなど、活動が停滞しているグループもあり、机間指導をしながら資料集や教科書を参考にするよう促した。15分ほどで、ほとんどの生徒が作業を終えた。

次に、ワークシート①（資料1）を配布した。ワークシート①にはペストの発生源の位置とヨーロッパの位置とを示した地図を載せた。また、同じ地図をスクリーンに映し、位置関係を確認させた。その後、作成した年表を参考にさせながら、ペストがヨーロッパに伝わった原因について、グループで話し合わせて考察させ、グループとしての意見をまとめさせた。また、グループとしての意見をワークシート①の【考えてみよう：ペストがヨーロッパに伝わった原因は？】の欄に記入させた。15分ほどたってから、各グループの代表にグループとしての意見を発表させた。以下は、発表された内容である。

< 1班 >

ペスト菌が移動してヨーロッパにたどり着き、環境がよかったので住みついた。

< 2班 >

マルコ＝ポーロが帰国したから。

< 3班 >

アジアとの貿易によって感染者がヨーロッパに帰国した時に、病原菌まで入ってきた。

< 4班 >

アジアと貿易をしているうちに、輸入品の中にペストを持っているネズミなどが入り込んでいて、ヨーロッパまでペストが来た。

< 5班 >

アジアとの積極的貿易

2～5班は、ヨーロッパとアジアとの交流に着目した内容であった。また、1班の発表に対して、「ペスト菌はどのようにして移動したのか」と質問したところ、「商人が運んできた」と答えた。つまり、この段階において、ペストがヨーロッパに伝わった原因として、ヨーロッパとアジアと間における人やモノの交流があったということが、生徒たちに認識されたと考えることができた。

<生徒が作成した年表>

世界史A作業プリント 「年表を作成しよう」

※次に挙げる歴史上の出来事を、例にならって下の年表に書き込んでみましょう。(全て書き込めるよう、バランスを考えて書いて下さい。)

(例①=1年だけのもの)1167…平清盛、太政大臣となる(日) (例②=数年にまたがるもの)1192～1333…鎌倉幕府(日)

(例③=2つの出来事が重なる場合)1192～1333…鎌倉幕府(日)と1221…承久の乱(日)

1071…イスラム王朝がイェルサレムを占領(ア) 1096～1099…第1回十字軍(ヨ) 1189～1192…第3回十字軍(ヨ)

1202～1204…第4回十字軍(ヨ) 1206…チンギス=ハン、モンゴル統一(ア) 1210～1260…モンゴル帝国の拡大(ア)

1241…モンゴル帝国、ヨーロッパに侵入(ヨ) 1270…第7回十字軍(ヨ) 1100～1300…アジアとの積極的貿易(ヨ)

1271…マルコ=ポーロ、イタリアを出発(ヨ) 1274…第1回元寇(日) 1275…マルコ=ポーロ、フビライ=ハンに仕える(ア)

1281…第2回元寇(日) 1295…マルコ=ポーロ、イタリアに帰国(ヨ) 1338～1573…室町幕府成立(日)

1347～1350…黒死病(ペスト)の大流行(ヨ)

年号	ヨーロッパ(ヨ)	アジア(ア)	日本(日)
1000			
1010			
1020			例①
1030			
1040			
1050			
1060			1167…平清盛、太政大臣となる
1070		1071…イスラム王朝がイェルサレムを占領	
1080			
1090	1096～1099…第1回十字軍		
1100	1100…アジアとの積極的貿易		
1110			
1120			
1130			
1140			
1150			
1160			
1170			
1180	1189～1192…第3回十字軍		例②
1190			例③
1200	1202～1204…第4回十字軍	1206…チンギス=ハン、モンゴル統一	1
1210		1210…モンゴル帝国の拡大	1
1220			2
1230			1
1240	1241…モンゴル帝国、ヨーロッパに侵入		3
1250			3
1260		1260	3
1270	1270…第7回十字軍 1271…マルコ=ポーロ、イタリアを出発		鎌倉幕府 1274…第1回元寇
1280			1281…第2回元寇
1290	1295…マルコ=ポーロ、イタリアに帰国		
1300	1300		
1310			
1320			
1330			1338…室町幕府成立
1340	1347…黒死病(ペスト)の大流行		
1350	1350		
1360			
1370			
1380			
1390			
1400			1573

続いて、ワークシート①の地図にモンゴル帝国の領域を、教科書を参考にさせながら色で塗らせた。これまでの学習で、生徒たちは、十字軍遠征による東方貿易の活発化、特にヴェネチア商人による東方貿易における覇権の確立と、モンゴル帝国が領域内に駅伝制を整備したことによるアジアとヨーロッパの交流の活発化、そのネットワークの西端にある東方貿易の一層の活発化について学習している。この作業は、それらの学習内容を踏まえて、ペストの発生源とヨーロッパとを緊密に結びつけたのが、モンゴル帝国によるユーラシア大陸の支配であったことに気付かせることを目的として行った。

ペストがヨーロッパに伝わった理由



【考えてみよう：ペストがヨーロッパに伝わった原因は？】

ペスト菌がヨーロッパに伝わった方法や経路について考えて、書いてみましょう。

【作業：_____の領域】

上の地図に、_____の領域を示しましょう。（教科書を参考に）

【考えてみよう：_____の成立の影響】

_____とヨーロッパとの関係はどうなっていますか。作業を通して気付いたことを書いてみましょう。

生徒が作業を終えたのを確認してから、スクリーンにモンゴル帝国の領域が示された地図を映し、各自の作業の結果を確認させた。その際に、「モンゴル帝国の領域の西端はどこまで及んでいるか」と発問し、帝国の領域が東ヨーロッパや黒海沿岸にまで及んでいることに気付かせた。



(年表を作成している様子)



(地図を映しながら説明)



(教科書を参考に地図作業)

ウ 3時間目の授業

3時間目は、ペストの伝播ルートを確認させた上で、これまでの学習で得られた情報を踏まえて、ヨーロッパにペストが伝わり、流行した経緯を各自で文章にまとめさせる活動を行った。

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準〔評価方法〕
導入 3分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の活動内容の説明を聞く。 		
展開 45分	<ul style="list-style-type: none"> ペストがヨーロッパまでどのようなルートで伝わったのか、ルートをワークシート②の地図に記入して確認する。 作業した地図を見て、そのルートを通してペストをヨーロッパに伝えたのはどのような人たちか、グループで話し合いながら考える。 グループの意見を発表する。 ヨーロッパにペストが伝わり、流行した経緯について、これまでに学習した内容を踏まえて各自で文章にまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> スクリーンに地図を映す。 ルートが黒海や地中海沿岸の港を結んでいることに気付かせる。 前時に作成した年表やモンゴル帝国の領域について作業した地図も参照させる。 	<p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地中海交流圏の成長やモンゴル帝国の成立がユーラシア大陸の東西交流を活発化させたことを理解している。 〔ワークシート②〕 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 14世紀のヨーロッパにおけるペストの流行について、ヨーロッパの都市の衛生状態と関連付けて文章で表現している。また、ヨーロッパへのペストの伝播について、東西交流の活発化と関連付けて文章で表現している。 〔ワークシート②〕
まとめ 2分	<ul style="list-style-type: none"> 次時の学習内容の予告を聞く。 		

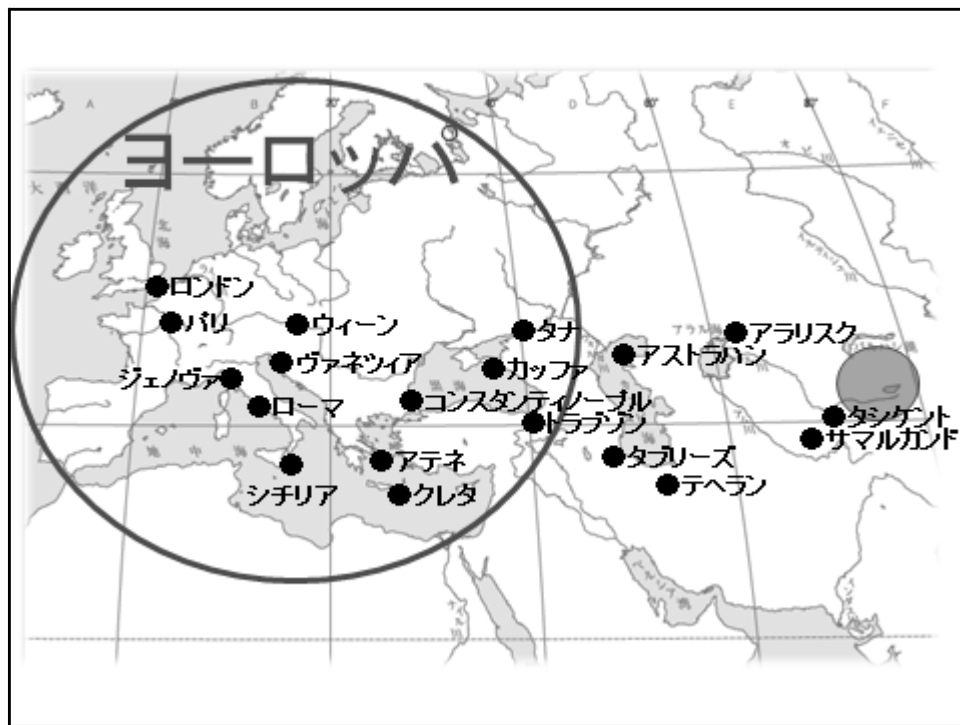
最初に、ワークシート②（資料2）の【作業：ペストが伝わったルート】を行わせた。ワークシート②に、ペストの伝播ルート上の都市を、伝わった順番が分かるように示した。それを見ながら地図中に示した都市を矢印で結ぶ作業を行わせた。どの生徒も丁寧にルートをたどり、中にはルートごとに異なる色のペンを使うといった工夫をしている生徒も見られた。

資料2

世界史Aワークシート②

2年 組 氏名

ペストがヨーロッパに伝わった背景



【作業：ペストが伝わったルート】

次に示すとおりの上の図にある地名を矢印で結んでみましょう

- ルート①…発生源→タシケント→サマルカンド→テヘラン→タブリーズ→トラブゾン
- ルート②…発生源→タシケント→アラリスク→アストラハン→タナ→カッファ→
コンスタンティノープル→アテネ→クレタ→シチリア→ジェノヴァ

【考えてみよう：ペストを伝えたのは誰か？】

上の地図に示したルートを頻繁に行き来したのは、どのような職業の人たちでしょうか。

【今回学習した内容を文章でまとめてみましょう。】

10分ほどたってから、ルートを示した地図をスクリーンに映し、ルートを確認させた。そのあとで、ワークシート②の【考えてみよう：ペストを伝えたのは誰か？】を、グループで話し合いながら行わせた。机間指導をして状況を確認すると、「商人」ではないかと答えていたのは5班のみであった。そのグループの生徒に理由を聞くと、「カプファやコンスタンティノープル、ヴェネチアなどイタリア商人の貿易港を通っているから」とのことであった。一方、他のグループでは「軍人」、



「皇帝の召使」、「盗賊」といった解答が書かれていた。それぞれのグループに解答の理由を聞くと、地図に示されたルートとの関連を考慮していないことが分かった。

作業が終了したのを確認し、それぞれのグループに話し合った結果を発表させた。5班の生徒が、地図から得られる情報を生かして、「商人」と予想したという発表をしたところ、それに対して多くの生徒がうなずいていた。

発表が終了したあと、一連の学習で得た情報をもとに、ワークシート②の【今回学習した内容を文章でまとめてみましょう。】を行わせた。グループ学習の形態になっていた席をもとの状態に戻し、各自で文章にまとめさせた。生徒が記入したものの中からいくつか紹介する。

<生徒1>

モニゴル帝国の建国で人の流れや物の流れが三番発になり、病気などがおこるようになったことなどが分かった。商人が貿易の時に持ちこんでしまった。

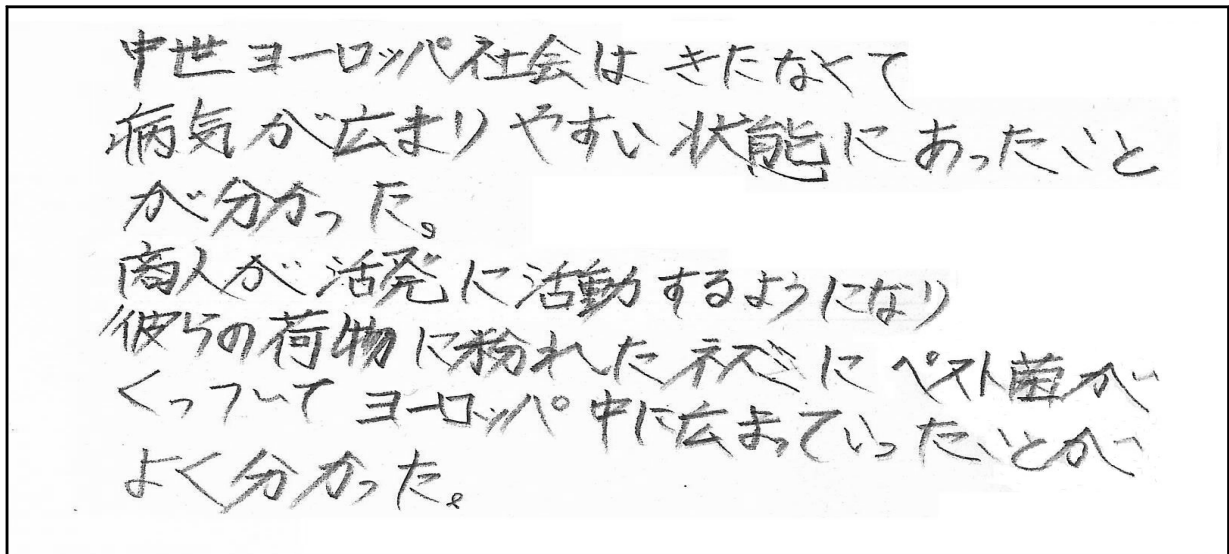
上の文章を書いた<生徒1>は、4班で活動してきた生徒である。4班は、2時間目の【考えてみよう：ペストがヨーロッパに伝わった原因は？】では、「アジアと貿易をしているうちに、輸入品の中にペストを持っているネズミなどが入り込んでいて、ヨーロッパまでペストが来た」という意見を書いていた。したがって、この生徒は、3時間目の発表から「商人」の語を使用して、文章を書くことができた。

<生徒2>

モンゴル帝国の成立や、ヨーロッパの衰退によって人や物の移動量により、ペストがヨーロッパ諸国に広まっていたこと。
商業が活性化することで、イタリアなどの商人が活発になり、荷物に紛れたネズミにくっついたペスト菌がヨーロッパ中に広まっていた。

<生徒2>は3班で活動してきた生徒である。3班は、2時間目の【考えてみよう：ペストがヨーロッパに伝わった原因は？】では、「アジアとの貿易によって感染者がヨーロッパに帰国した時に、病原菌まで入ってきた」という意見を書いていた。また、3時間目の【考えてみよう：ペストを伝えたのは誰か？】では、「軍人」と発表していた。つまり、アジアとの交流に注目しながらも、その視点を3時間目の考察に生かせなかったと言える。しかし、3時間目の発表を聞くことで、「アジアとの交易」を「商業の活性化」や「イタリアなどの商人」と具体化し、それを踏まえて文章を書くことができた。しかし、前半の文章との関連が読み取れず、モンゴル帝国の拡大と商業の活性化とを結びつけることができていると考えられる。

<生徒3>



<生徒3>は2班で活動してきた生徒である。2班は、2時間目の【考えてみよう：ペストがヨーロッパに伝わった原因は？】では、「マルコ=ポーロが帰国したから」という意見を書いていた。ヨーロッパとアジアとの交流に注目し、さらに年表から関連すると思われる事柄を見つけ出すことができていた。3時間目の発表を聞いて、マルコ=ポーロを含めた商人の交流の活発化に触れた文章を書くことができるようになった。発表の効果が大きかった例と言える。

生徒が書いた文章の内容を分類すると、多くの生徒が上にあげた例のように、モンゴル帝国の成立による交易の活発化や、中世ヨーロッパの都市の衛生状態のいずれかに触れた文章を書いていた。特に、中世ヨーロッパの都市の衛生状態については、「中世ヨーロッパでは、排泄物やゴミを道に捨てたまま、環境はとて最悪で、きたなかった。」とか「中世ヨーロッパはとてきたなく、国はまわりがカベで囲われていて風通しがわるく、病気もはやりやすかった。」など、多くの生徒が触れていた。これは、1時間目に行った、クイズによる学習の効果が3時間目にも生かされた結果であると言える。

(5) 生徒による授業評価

3時間目の終了後、用紙を配布して今回の授業に対する感想を文章で書かせた。以下はその例である。

・年表を作成して、日本がこんなことをやっていたときの、ヨーロッパやアジアの出来事が分かった。

- ・年表作成が面倒だったが、その年表が役に立った。
- ・文明というか、時代の発展には、必ず負の連鎖があることが分かった。今の環境問題と似ていると思った。
- ・ヨーロッパは黒死病の被害にあいながらも、今のヨーロッパまで再生したことはすごいと思った。
- ・今は発展しているヨーロッパにも、こういう時代があったということが分かった。年表を作ってみて、ヨーロッパ、アジア、日本ではかなり差があることが分かった。
- ・歴史ってこういう風に見ると、横でつながっているんですね。

感想からは、年表を作成したことにより、同時代の世界の諸地域を比較する視点を生徒がもてるようになったことが読み取れる。また、環境問題や現在のヨーロッパと関連させるなど、学習した内容を自身が生きている時代から見ていることも読み取れる。

3 まとめ

(1) 成果

本事例では、年表や地図を作成したり、作成した年表や地図を活用したりして、14世紀のヨーロッパにおけるペストの流行について考察する授業を行った。これらの学習活動を通して、生徒が事象に対する関心や意欲を高めたり、事象の背景を多面的・多角的に考察できたりすることを目指した。

1時間目の授業中における生徒の様子を見ると、スクリーンを活用したクイズ形式によって、導入の段階における生徒の関心や意欲を高めることができた。3時間目の最後に書かせた文章にも、1時間目の内容を踏まえたものが多かったことから、スクリーンを活用したクイズ形式の効果があったと言える。また、2時間目と3時間目のグループでの話し合いにおいては、どのグループでも活発な議論が行われていたことから、1時間目で高まった関心や意欲は、その後も持続していたと考えられる。

また、年表や地図を活用したり、他のグループの発表を聞いたりすることで、ペストがヨーロッパに伝わったり流行したりしたことの背景を多面的・多角的に考えることができた。このことは、既に紹介した生徒によるまとめの文章において、多くの生徒が、自分たちの所属するグループでの話し合いから得られた情報と、3時間目の他のグループの発表から得られた情報を踏まえて文章を書いていることに表れている。

年表や地図の活用については、本事例では教科書や資料集に掲載されているものを使用するのではなく、生徒自身に年表を作成させたり、地図に必要な情報を書き込ませたりする作業を取り入れた。教師が必要な情報を与えて、年表や地図を作成させることは、生徒が学習の内容との関連に気付いたり、情報を読み取って考察を進めたりする上で効果的であると考えたためである。特に、生徒の感想を紹介した際に触れたように、関連する項目のみに絞った年表を自分で作成することは、同時代の横のつながりに生徒の目を向けさせる上で効果があった。この同時代の横のつながりの視点は、2時間目以降の考察の際のヒントとなって生かされた。

(2) 課題

今回の事例では、年表や地図を活用して考察を進めることが活動の中心であった。2時間目の授業においては、ペストの発生源がアジアにあることから、アジアとヨーロッパを結びつける事柄を、作成した年表から選び出す作業を行った。多くの生徒がマルコ＝ポーロや東方貿易など、

関連する事柄を選ぶことができ、効果的な活用が行われた。

しかし、3時間目の授業で行った、ペストが伝わったルートを示す地図の活用では、ルートがイタリア商人のネットワークと一致していることに気付いたのは一つのグループのみであった。多くの生徒が、イタリア商人による東方貿易についての授業で得た知識が身に付いていなかったり、地図に示されたルートとの関連に気付くことができなかつたりしたことがその原因と考えられる。このことから、地図から必要な情報を読み取らせるには、視点を明確にする必要がある。この事例の場合には、ワークシートに「ルートはどのような都市を結んでいるか気付いたことを書いてみよう」といった問いを設けるなどの工夫が考えられる。また、この事例の前に実施する東方貿易に関する授業においても、地図の作業を取入れるなどの工夫をすることで、生徒自身が地図を読み取る視点に気付くことができると考えられる。